

## 編集後記

豊田市矢作川研究所が発足したのは、平成6年7月でした。この研究所の設立主旨は、矢作川の流量と水質を将来にわたって保全していきたいというものでした。そのためには、水源域を含め流域全体として自然生態系が健全でなければならないという思いを前提にしました。ご承知のように、矢作川は農業と工業を中心とする産業の一大集積地を貫流し、それらを根底で支え続ける川であり、しかも水利用率が極めて高く余裕の乏しい川です。それ故に、利害の交錯も複雑で調整することが難しい一面を持っています。

従って、当研究所は発足の当初から、利害関係にとらわれることなく学術的研究を行い、その成果を広く流域の皆様、関係機関、そして関係団体等に提供し、オープンな議論の材料にさせていただきたいと念願していました。

お陰様で、各界の多くの研究者の皆様のご理解とご厚意により、調査研究と報告論文の整理が進みました。ここに衷心より感謝を申し上げます。

今回の創刊号は、発足1年半分の研究成果を掲載しましたが、当初は平成8年の秋に発刊を予定していました。たいへんに遅れてしまったのは、偏に不慣れな編集者の責任であり、お詫びを申し上げます。

また、「学術的研究」を目指すうえで、編集様式にもとまどうことばかりでしたが、当研究所主任研究員の田中蕃さんの指導と熱意により、ここまでたどりつくことができました。また、豊田市役所秘書室の久世紀子さん、当研究所の事務局員である田口美恵子さんの奮闘、そして無理難題に根気よく対応して下さった(株)クイックスの中島正臣氏にも本当に頭が下がりました。心より御礼申し上げます。

1997年3月25日

矢作川研究・創刊号編集委員

村山志郎・宮田昌和